



2021年の年初に当たって

主があなたを祝福し、あなたを守られるように (民数記6・24)

マリオ山野内倫昭
さいたま教区司教

さいたま教区の兄弟姉妹の皆様

主が、新しい年を喜びと希望で満たして下さいますように。

元旦の今日、教会は「神の母聖マリアの祭日」をお祝いしています。マリアを通して受肉した神が、新しい年2021年も私たちと共にいて、見守って下さいますように。

加えて教皇パウロ6世が1968年に制定された「世界平和の日」の第54回目もお祝いしています。教皇フランシスコは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中での私たちが体験した一つひとつの出来事により、兄弟愛に満ちた関係に基づいた社会を築くために、互いを思いやり、被造物を大切にすることがいかに重要であるかを教えられたとして、今年のメッセージのタイトルを「平和への道のりとしての思いやりの文化」とされました。教皇のおっしゃる「思いやりの文化」とは、「今日はびこっている無関心、使い捨て、対立の文化に打ち勝つための文化のことです」と言われ、互いを思いやるという人間の使命の源は創造主である神にあること、その模範は創造主なる神にあることを述べ、それにはイエスの公生活、イエスの弟子の人生における思いやりの心を深く知るようにと勧められています。そして、思いやりの文化の基礎である教会の社会教説の諸原理に学ぶこと、言い換えますと、各人の尊厳と権利を促進するための共通善のための思いやり、連帯による思いやり、被造物への思いやりと保護を勧め、そのための羅針盤を示し、「思いやりの文化なくして平和はありません」と結ばれています。

昨年を振り返りますと、さいたま教区の皆様は、わたくしがお送りした14次わたる「新型コロナウイルス感染症のパンデミック下における対応」や「励ましのメッセージ」、そして手紙「挑戦のとき」をしっかりと受け止めてくださり、共に歩んできてくださいます。

した。皆様みなさまが成なし遂とげてください。一致いっちの根底こんていにはすでに「思いやりの文化ぶんか」の芽めが出だていることをわたくしは確信かくしんしています。新型コロナウィルスのパンデミックの終息しゅうそくが未だ見えない今いま、心こころを新たあらにして、新あたらしい年としを「平和へいわへの道みちのりとしての思いやりの文化ぶんか」を育はぐくみ、守まもり、他たの人ひととの連帯れんたいを実現じつげんしながら平和へいわの道具どうぐとして、預言よげんする人ひと、証あかししする人ひとになれるように、わたくしも皆様みなさまと共ともに努めつとめたいと思おもいます。

新年しんねんに当あたり、アジジの聖せいフランシスコの祝福しゅくふくによって、皆様みなさまお一人ひとりおひとりひとりに兄弟きょうだい的な祝福しゅくふくをおくります。

「主しゅがあなたを祝福しゅくふくし、守まもってくださいるように。

主しゅが御顔みかおをあなたに示あわし、あなたを憐れあわんでくださるように。

主しゅが御顔みかおをあなたに向むけて、あなたに平安へいあんを与あたえてくださるように。」

父ちちと子こと聖霊せいれいの御名みなによって。アーメン。